

S1.15 ひらがな文法かローマ字文法か

国語の文法では文をひらがなを用いて分析しています。ですから、

彼は先輩に酒を飲まされた。

という文の「飲まされ」の部分は「飲ま／さ／れ」と分析して、こう説明します。

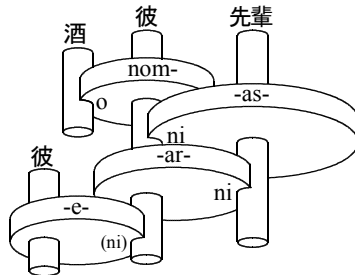
飲ま …… 動詞「飲む」の未然形

さ …… 動詞・助動詞の未然形につく使役の助動詞「す」の未然形
(ただし、「さ」は現代語の活用表にはなく、説明できません。)

れ …… 動詞・助動詞の未然形につく受身の助動詞「れる」の連用形

即座にこの説明ができますか。

構造を見てみましょう。



図S1-93 彼は先輩に酒をのまされ(た) (≒図S3-10の図)

「飲ま」は構造のどこにありますか。「さ」はどこに、「れ」はどこにありますか。

構造のとおり分析すれば、次の a) ではなく b) のようになります。

飲まされ a) noma-sa-re のま・さ・れ (国語文法での分析)

飲まされ b) nom-as-ar-e- (ローマ字での分析)

説明は次のように容易で、上の国語文法の説明とは大違い、誰にでもできます。

- nom- 動詞「飲む」nom-
- as- 原因態詞(使役態詞)
- ar- 受影態詞(受動態詞)
- e- 許容態詞

これで、国語文法では単純なものを不必要に複雑なものにしてしまっていることがよく分かります。その原因は文法を「ひらがな」で考えていることです。ひらがなは1文字が「ま ma」のようになっていて単音m, aを扱うことができません。文法を考えるとときには単音を1つずつ表すことのできるローマ字を使うほうがよいのです。

問S1-32 「飲む」をひらがなとローマ字で分析して、説明してください。

問S1-33 「見る」を国語文法でどう分析しているか説明してください。